

経営比較分析表（平成29年度決算）

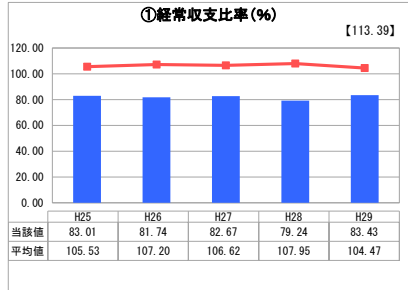
北海道 湧別町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	92.48	83.46	4,100	

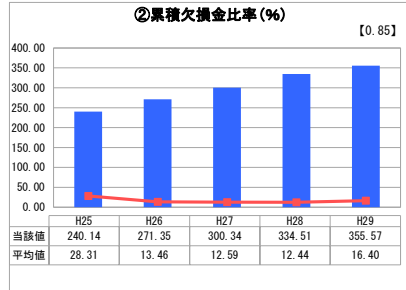
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,066	505.79	17.92
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
7,462	174.04	42.88

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

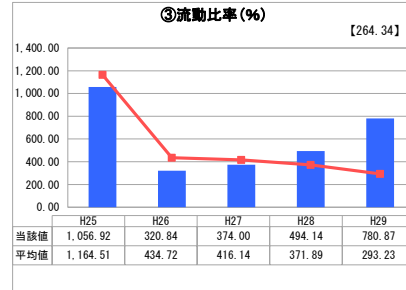
1. 経営の健全性・効率性



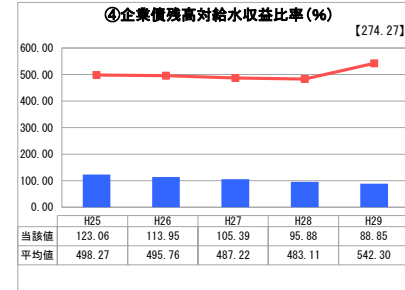
「経常損益」



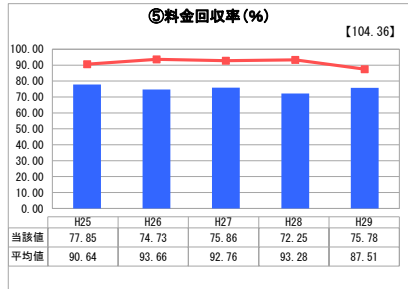
「累積欠損」



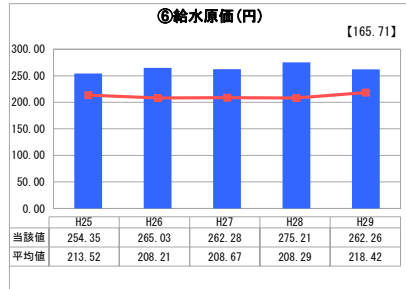
「支払能力」



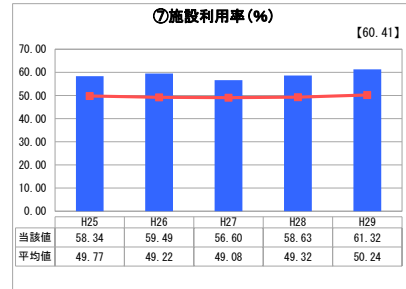
「債務残高」



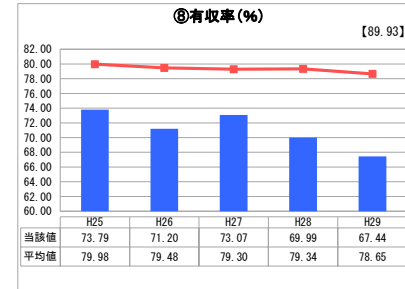
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

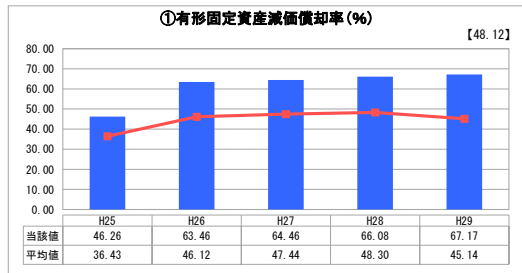


「施設の効率性」

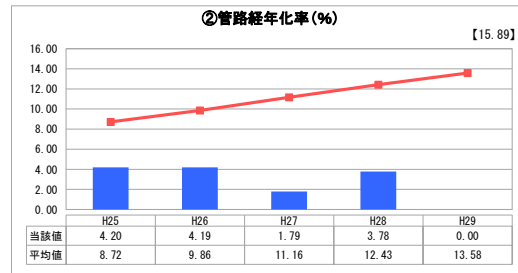


「供給した配水量の効率性」

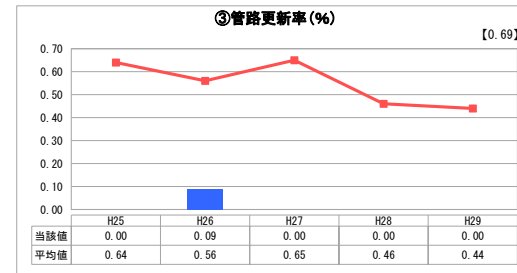
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営収支比率が100%に達しておらず単年度収支で赤字になっており、合併により一部統合になった平成23年度以来、累積欠損金が年々増加している状況が続いています。
企業債残高については、平均を下回っていますが、大規模な更新による経費の増大が見込まれているため、これまで以上の経営健全化・効率化が求められます。

2. 老朽化の状況について

本町の主要な浄水場である東山浄水場は、昭和59年建設から30年以上が経過し、全面的な更新の時期を迎えており、今後更新に着手すると莫大な経費がかかる見込みとなっています。
管路については、経年化率は平均を下回っているものの有収率は67.44%と低い状況が続いており、老朽化した管路の更新も必要な状況です。

全体総括

本町の水道事業は、累積欠損金が年々増加しており、水道事業の経営はよい状態とは言えず、大規模な浄水場の更新も先延ばししている状況でこれまで以上に経営の健全化・効率化に取り組んでいかななくてはなりません。また、有収率も依然として低い水準のため漏水修繕等により有収率の向上を図る必要があります。

今後、より一層の経営改善を図る観点から各種計画の策定、水道料金の改定、近隣市町村との連携を図るなど抜本的な対策について検討をしておく必要があります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。